

# ある開拓農家の肥育経営

畜産課

最近、和牛の経済肥育が急速に伸びて来ていますがここに、紹介する御津郡、上建部町、能勢谷開拓地のWさんは昭和22年入植以来、開拓地の肥沃化を第一目的として和牛の育成—和牛の短期肥育をはじめられ、現在土地の肥沃化による農産物の増収と肉牛の生産

と、一石二鳥の畜産をとり入れた合理的な農業経営を行っておられます。

以下Wさんの手記を紹介して皆様の参考としたいと思います。(畜産課)

## 肥育収支記録簿

牛 番 号	1. (老廃牝牛)	2. (去勢牛2才)	3. (牝3才)	4. (去4才)	計
購 入 月 日	33. 3. 22	33. 7. 15	33. 11. 27	34. 2. 2	
購 買 場 所	家畜商から	岡 山	家畜商から	家畜商から	
販 売 月 日	33. 7. 15	33. 11. 19	34. 1. 25	34. 4. 5	
肥 育 期 間	114日	127日	59日	62日	
販 売 場 所	岡山市場	家畜商へ	家畜商へ	家畜商へ	
購 入 価 格 (a)	51,000	30,000	48,000	40,000	
販 売 〃 (b)	86,000	61,000	70,000	65,000	
飼 料 費 計 (c)	23,405	18,555	13,955	11,230	
	{ 大豆粕 82.5kg 大 麦 336kg 裸 麦 120kg 麦 皮 120kg	{ 大豆粕 95kg 大 豆 60kg 大 麦 皮 210kg 大 麦 126kg 裸 麦 90kg ミートモア	{ 大豆粕 130.5kg 大 豆 30kg 裸 麦 100kg 小 麦 45kg 麦 皮 120kg	{ 裸 麦 250kg 大豆粕 37.5kg 麦 皮 300kg その他レンゲ 飼料作物	
運賃その他諸経費 (d)	2,000	700	—	—	
差 引 利 益 金 (b) - {(a) + (c) + (d)}	9,595	11,745	8,045	13,770	
1 日 当 り 利 益 金	84	93	136	222	

### (I) 肥育をはじめた動機

昭和22年入植以来、開墾地における、堆厩肥不足のため、長い間、育成牛として和牛を飼育しておりました。その収支は大体18ヵ月間の飼育で、その間の飼料代その他を合算すると、交換の際は、いつも赤字になる状態でした。

ある時、農協のM指導員より、和牛の肥育をすすめられるまま肥育をはじめました。当時は飼料費を支払うのが漸くという状態でしたが厩肥による肥料価値を考えて大した収益もないまま続いていました。

### (II) 肥育事業の経過

#### (1) 予備知識として

- (イ) 簡単な体重の求め方
  - (ロ) 飼料のあたえ方
  - (ハ) 素牛の選び方
- について知識を習得した。

#### (2) 肥育の経過

初期は年間5～6頭の肥育を行いました。が稼働人員が少ないのと、現在のところ、濃厚飼料の給与が主であるため、(短期肥育)近頃は、年間3～4頭の割合で行っています。

## 岡山畜産便り1960.03

### (3) 農業経営に及ぼした影響

濃厚肥料をかなり給与しますので厩肥の肥効が高まり、地力は増進され、米麦その他の生産物は増収され、然も購入肥料費は、今までより、ずっと軽減されるようになり、肉畜の造成による収益とあわせて、我が家の農業経営上における肥育事業は、重要な部位を占めております。

特に本年は、酒米、14俵、その他の粳米7俵を出荷した事も、いかに、肥育により、農業経営が合理化されたかを物語っています。

### (4) 飼料事情

現在水田 4.3 a 畑 3 a 桃 5 a を耕作し

粗飼料は100%自給

濃厚いは購入60%、自給40%の割合です。

### (5) 肥育収支記録、別表

### (Ⅲ) 将来の計画

水田を13 a に増反し、そのあと作として、麦その他の作物をつくり、濃厚飼料の増収を図り、濃厚飼料の自給率を6%程度にもってゆきたい。

なお、現採草地8 a をすべて牧草化し、良質なる飼料を確保し常時、肥育素牛2～3頭程度を飼育したものです。

(Wさんは、昭和22年入植以来、24年優良開拓者として、県開拓協会会長より表賞され、27年には岡山県開拓地多収穫共進会において、特賞として農林大臣賞を得られています。)